

米国学術研究の動向

米国中間選挙後における 2011 年度研究開発予算の動向について

財政赤字の削減が最優先であるとの考えは民主党と共和党の共通事項であることに変わりはないが、両党はそれぞれ異なったプランを持っている。いずれにしろ、研究開発予算の削減は避けられそうにないというのが、米国科学振興協会(AAAS)の見解である。現在のところ両党削減案は次のとおり。

民主党案：

オバマ政権は財政管理予算庁(Office of Management and Budget)を通し非防衛系機関(non-security agency)の2012年度予算案について、次のように指示をしている。(1)2012年度予算案は2011年度予算と比較して5%削減、(2)その5%削減分には、裁量予算の追加5%になる低インパクト・プログラムを含む。これは低インパクト・プログラムの予算削減分を他機関へ再投資することで、以前の2012年度予算案より5-10%の削減が可能となる。ここで重要なことは、歳出基準が以前の2012年度予算案に基づいているため、いくつかの米国競争力法(America COMPETES Act)によるプログラムが含まれないことに注意が必要である。

共和党案：

2010年の共和党アジェンダ(A Pledge to America)では連邦政府の研究開発予算に重要な影響を与える政策を含んでいる。これによると、2008年の景気刺激策以前まで歳出基準を引き戻し、2011年度予算の削減案を定めようというものである。本案により2011年度の研究開発予算を85億ドル(2010年度より5.7%)削減するとしている。こちらについても、米国競争力法など継続しているプログラムの予算削減が行われるため、混乱は必至である。

また、11月10日に、オバマ大統領が超党派で設置した財政責任改革委員会(National Commission on Fiscal Responsibility and Reform)の共同委員長(co-chair)のアラン・シンプソン、アースキン・ボウルズは、2015年を目標として財政赤字を国民総生産(GDP)の3%に抑えるという大胆な削減案を発表した。本案は58項目総額2000億ドルに及ぶ歳出削減を予定しており、研究開発関連予算もリストに含んでいる。なお、本案は12月1日に正式発表されるとのこと。

参考：

米国科学振興協会(AAAS) R&D Budget and Policy Program ウェブサイト

<http://www.aaas.org/spp/rd/index.shtml>